

しが国際協力親善大使レポート

あらい たかお
荒井 孝雄さん

隊次：2017年度1次隊

職種：コミュニティ開発

派遣国：ドミニカ共和国

自己紹介

大学でアラビア語を専攻し、卒業後はスポーツシューズの商品開発職として5年間勤務。社内の休職制度を利用し、青年海外協力隊としてドミニカ共和国で活動中。任期終了後2019年8月より復職予定。配属先は、保健医療・インフラ・農業・教育の分野で農村コミュニティの支援を行うカトリック系のNGO ミッションイラク (Misión ILAC)。私はそのNGOからさらに派遣という形で山間部のコミュニティで暮らしながら、収入向上や学習機会の提供などを目指して活動しています。

任国、活動地域の気候や文化の紹介

ドミニカ共和国は、人口約1076万人（滋賀県の約7.6倍）、面積はおよそ琵琶湖72個分で、キューバの東にあるイスパニョーラ島に位置し、ハイチと国境を接しています。平地では年間を通して温暖（首都の平均気温：8月27℃、1月24℃）、日射しは強いですが湿度は低く、日陰は比較的快適です。私が暮らすコミュニティ（標高約1100m）では朝晩冷え込むので、8月でも毛布をかけて寝ています。主食は調理用バナナ、油と塩を加えて炊いた米（日本では水だけで炊くと言うと、そんなあほな！という反応が返ってきておもしろいです）、キャッサバなど。国民食はアビチュエラという豆の煮込み。意外かもしれませんが、辛いドミニカ料理はありません。カトリックが多く、私も毎週日曜日はホームステイ先家族と一緒にミサに参加しています。

活動や生活について

住民の95%以上がコーヒー農家という山間部のコミュニティ（現地JICA事務所の方にも「隊員の任地の中で1番田舎」と言われるようなところ）で暮らしながら、有志で組織された女性グループと活動しています。新たな収入源の獲得、ごみ問題など環境面の改善、子どもたちへの学習機会の提供が、主な活動の目標です。

これまでは、女性グループのロゴやコーヒーのパッケージデザイン、コーヒー豆を使ったアクセサリーの提案とアクセサリー作りのワークショップ、コーヒー石けんの試作、できた商品を観光地やJICA関係者へ売り込み、女性と一緒にバザーへ参加、職業訓練校と共同で講座を開催、学校での英語授業など、試行錯誤しながらひとつひとつ活動を進めています。収入向上については、今でこそコーヒーとアクセサリーの販売のおかげで資金形成に貢献できていますが、着任当初は思うように活動が進まず苦勞することもありました。女性たちは全員主婦で、毎日家事で忙しいうえ、私の着任前から行っているコーヒー苗栽培に関する仕事も抱えています。また、グループの活動には給料が発生しないため、どこの誰かわからないスペイン語もいまいちの日本人が提案する新しいことに対して、しかもそれがお金になる確

証がなければ、モチベーションが上がらないのも当然でした。そこで、実際にロゴ、パッケージデザイン、アクセサリーの試作品などを見てもらいながら商品化を進めたところ、その過程で商品づくりの技術が少しずつ身につくにつれて、実際に利益も獲得していくにつれて、彼女たちのやる気も徐々に出てきたように感じています。最近では、コミュニティのために何かしたいという私の想いと行動が伝わり、「家族と一緒に」「帰ったら寂しくなるわ」と声をかけられるなど、信頼関係を築けていると感じることもあります。それはほんとうに嬉しいです、もっと頑張らなければという気持ちになります。

今後に向けては、安定した販売先を確保する、商品のバリエーションを増やす、アクセサリーの品質を高める、コミュニティから市場までの輸送方法を見つける、など課題は山積みです。また、私の帰国後に女性グループが継続して商品開発や販売を続けていけるような体制と仕組みもまだ作れていません。残り6か月でどこまで形にして引き継げるかわかりませんが、自分にできる限りのことに挑戦して後悔なく帰国できるように、これからも活動していきたいと思います。

コミュニティでの生活は、厳しいながらもとても素敵です。豊かな自然に囲まれ、空気もとても澄んでいて（遠くのものも全然ぼやけないので、錯覚で景色が合成写真みたいに見えることがあります）、調理用バナナや芋は自給、家庭菜園で野菜を栽培し、生ごみは家の裏のコーヒー農園に捨てて肥料に、水は川から引いてフィルターを使用して濾過（断水は都市部より少ないです）、夏は川で水浴び、あと住民の主な移動手段はバイクですが、隊員は乗車禁止なのでよくラバに乗って移動したりと、自然と調和した生活を送っているんだな、と実感できます。コミュニティの人たちも、農家の仕事は重労働で厳しいですが、お喋りする時はみんなこれでもかというぐらい楽しそうで、心から思いっきり笑う様子がとても印象的です。ここでの生活が好きで誇りを持っているのが伝わってきます。あと半年、彼らと一緒に楽しく、そしてひたむきに過ごしていきます。



コミュニティのようす。自然あふれる最高の環境です。



登山ガイドとしても働くホストファザーと。
一緒に登山に行った後、コミュニティの商店で乾杯



女性たちと一緒に作っているコーヒー豆アクセサリ



バザーの準備をする女性グループのメンバー



女性グループのメンバーたちと山奥にあるマリア像の前で記念撮影。
メインのマリア像が切れているのはご愛嬌です。